

ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2025年7月11日時点)

➤ **露軍は、クルスク州及びウクライナ東部・南部地域**において攻勢やウクライナ全土に対するミサイル・無人機攻撃を継続。また、ウクライナ軍も露領内への攻撃を継続している模様。

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

- 露軍: **死者約19.8万人**(ゼレンスキー大統領24年12月8日)
 - : **死者最大25万人、死傷者95万人以上**(CSIS25年6月3日)
 - : **死傷者約100万人**(英国防省25年6月12日)
- 「ウ」軍: **死者4.3万人**(ゼレンスキー大統領24年12月8日)
 - : **死者最大6~8万人、死傷者約40万人**(CSIS25年6月3日)
- 「ウ」市民: **死者12,654人以上、負傷者2万9,392人以上**(UN25年2月21日)

- 「ウ」軍総司令官は、**スーミ州国境地域における露軍の攻勢が停止し、同前線は安定している**と表明(6月26日)
- 露国防省は、7日に**ドニプロペトロウスク州ダチネ**を解放したと主張。他方、「ウ」軍総司令官は、**同州への露軍進出を防止している**と主張(7月7日、8日)
- 「ウ」軍総司令官は、戦況について、最も激しい戦闘が行われているのは、**ポクロウスク方面、リマン方面、ドニプロペトロウスク州方面、クルスク・ハルキウ方面**であると表明(7月8日)
- 露国防省は、6月26日にドネツク州**ノヴォセルヒウカ**、同州**シェフチェンコ**、27日にハルキウ州**フレキウカ**、28日にドネツク州**ジルカ**、29日に**ノヴォウクラインカ**、7月4日にハルキウ州**ミロヴェ**、6日にドネツク州**ピドゥブネ**、9日に同州**トウステ**を解放したと発表

- 「ウ」空軍は、露が、6月27日に**無人機×363機**、ミサイル×8発、29日に**無人機×477機**、ミサイル×60発、7月4日に**無人機×539機**、ミサイル×11発、5日に**無人機×322機**、10日に**無人機×397機**、ミサイル×18発、9日に**無人機×728機**、ミサイル×13発で「ウ」を攻撃したと発表。ゼレンスキー大統領は9日、同日の攻撃について、最大規模の攻撃であった旨発言
- 「ウ」空軍は、露のミサイル・無人機攻撃の対応にあっていた**F-16パイロット1名が死亡**したと発表(6月29日)
- 「ウ」保安庁は、「ウ」軍と無人機で露**ヴェルゴグラード州マリノフカ空軍基地**を攻撃し、**Su-34戦闘爆撃機×2機が破壊**、**2機が損傷**と発表(6月28日)
- 「ウ」保安庁は、クリミア半島の**キロフスコエ軍事飛行場**を無人機で攻撃し、露**ヘリコプター×3機**(Mi-8、Mi-26、Mi-28)及び**防空システム「パンツィリ-S1」**を破壊と発表(6月28日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- 👉 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- 👈 ウクライナ軍が占領した地域

- 「ウ」大統領府は、「ウ」と米企業「Swift Beat」が無人機の生産拡大に関する覚書を締結したと発表。また、同社が「ウ」軍向けに**対無人機・ミサイル迎撃用無人機**などを生産するとし、**25年には数十万機**の無人機が供給される旨表明(7月3日)
- 米国防省は、同省が誘導弾等一部兵器の備蓄状況に鑑み、これらの「ウ」供与を**一時停止**したとの報道を認める旨表明。その後、トランプ大統領は「ウ」への自衛用兵器供与の必要性を表明、**国防省も兵器の追加供与を発表**(7月1日、7日)
- 欧米メディアは、トランプ大統領とゼレンスキー大統領が電話協議を実施後、米国が「**ペトリオット**」防空システム用ミサイル×10発の供与を約束と報道(7月7日)

- 独政府報道官は、メルツ首相が、「ウ」に供給するため「**ペトリオット**」防空システムを独が購入することについてトランプ大統領と協議したと発表(7月4日)
- 「ウ」軍総司令官は、この1か月、露による「ウ」への**ミサイル・無人機攻撃が1.6倍**となっている旨述べ、現在「ウ」の**優先項目の1つは防空システムの強化及び有効性向上**であると言及(7月8日)



国土地理院標準地図を加工

資料源:ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等